

# 韓国ひとり旅



かつしか PPクラブ

小池和栄

# 韓国 冬の旅

## 目 次

I. 繁栄と緊張	・ ・ ・ ・ ・ 3
II. 歴史の碑 (いしぶみ)	・ ・ ・ ・ ・ 5
III. 伊藤博文と安重根	・ ・ ・ ・ ・ 7
IV. 異国の実感	・ ・ ・ ・ ・ 9
V. 不安定な平和	・ ・ ・ ・ ・ 11
VI. 血と銭は同じか	・ ・ ・ ・ ・ 13
編集後記	・ ・ ・ ・ ・ 15

### 表紙の写真

独立記念館の裏庭は冬枯れていたが、王朝時代を思わせる赤レンガの塀と、アララギの濃い緑が好対照である。冷たい風も無縁な陽だまりは、そこだけ時間が止まったような穏やかな風景であった。

# I . 繁栄と緊張

2010年12月13日からでソウルを訪れた。韓国の冬は寒いと聞いていたが、連日、日中でも氷点下10度を超す「冷たい歓迎」を受けた。韓国はこれまで2回行ったが、以前は仕事だったので、現地のアテンドがあったが、今回は完全な1人旅である。

この旅を思い立った動機は、この時季がオフ・シーズンであることと、退職後の緩んだ気持の引締めにあった。

同年3月には北朝鮮の魚雷で哨戒艦が沈没、11月末には延坪島への砲撃など、緊張感が高まっている。

言葉は解らないが、目的に叶う国と考えたからである。友人に話すと、どうせ、「K A R A」の追っ駆けだろうと言われたが、決意が誤解されるのは、日頃に問題があるカラだろう。

最近の新聞によると、ヒュンダイ（現代）は、アメリカでの自動車販売台数を120%伸ばし、サムソン（三星）電子も売上げが前年比112.8%で、135兆7600億ウォンに達したという。



(ロッテホテル前のイルミネーション)

円高に苦しむ日本に比べ、ウォン安の追い風を受け景気は好調らしい。着いた日に空港で、とりあえず 2 万円を両替すると、約 28 万 4000 ウォンに膨らみ、えらく得したような気がした。

クリスマスを目前にしたソウルの夜は、いたるところ華やかなイルミネーションで飾られ、緊張感はなく東京と同じである。

## II. 歴史の碑 (いしぶみ)

ソウルの地下鉄 3 号線に「高速ターミナル」という駅がある。

そこからハイウェーバスで、南に 1 時間ほど下ったところに天安市（忠清南道）がある。奇しくも、昨年撃沈された哨戒艦と同じ名前である。ガイドブックで、そこに「独立記念館」があると知り、一度見ておきたかった。



(独立記念館の正門)

天安のバスターミナルでタクシーに、漢字で〈独立記念館〉と書いたメモを示すと、3 人目の運転手が了解した。

中心街から 20 分ほど走ると、疎林に囲まれた建物が見えてきた。

全国から小・中学生が遠足や見学に訪れるというが、冬場の為か子供たちの姿は無かった。約 4 万㎡という広大な敷地には、国家草創期から現代までの半島国家の歴史を、7つの館に展示している。

3、4号館は、かつての日本の朝鮮侵略を史料や映像で見せていた。冷酷な顔立ちの日本兵から拷問を受け、血に染まり苦しむ韓国人の姿が蝨人形で復元され、リアル過ぎて見るに耐えない。

ミン妃惨殺や、戦時中に鉱山や軍需工場での強制労働、従軍慰安婦への非道を、音響の効いたジオラマや影絵で再現している。

これに並べる形で、竹島は韓国の固有領土であると映像やパネルで説明し、これまで日本が韓国に対し、いかに過酷な仕打ちをしてきたかのストーリーになっている。

1980年代、日本の教科書問題で反日感情が沸騰した頃、「克日」（日本に勝つ）を叫ぶ韓国民の寄付によって建設されたという。

恨みを隠さない表現はすさまじく、これを見た子供たちは、日本への概念を固定しかねない教育の恐ろしさを感じた。

### Ⅲ. 伊藤博文と安重根

屋外には、朝鮮の独立運動家安重根が伊藤博文を襲撃した瞬間を再現した群像があった。敢然と拳銃を放つ安重根。胸を押さえ崩れる伊藤博文。驚き取り押さえようとするロシアの儀杖兵。

1906年（明治39年）10月26日朝、南満州鉄道の哈爾濱（ハルピン）駅頭で、ロシア軍を閲兵中の伊藤博文は、安重根が放った銃弾3発を受けて倒れた。伊藤は、初代の内閣総理大臣や朝鮮総督など要職を極め、朝鮮と深く関わっていた。



（伊藤博文を狙撃した安重根）

一方の安重根は、黄海南道（北朝鮮）の素封家に生まれ、敬虔なカトリック教徒であったという。自らの左手薬指を絶ち、祖国独立を誓った愛国者として韓国では英雄である。

二人はそれぞれ「東洋平和論」を唱えたが、伊藤は、日本がアジアの盟主となって、東洋の平和を実現しようと考えた。

これに対し安重根は、韓国、日本、中国が独立した形で、西欧の侵略を防ごうと考えていた。お互いの目的は同じでありながら、手段が違うことが皮肉な結果を生んでしまった。

あれから 100 年……。日本も、朝鮮半島も、アジアも大きく変わった。

## IV. 異国の実感

独立記念館の帰りは苦勞した。タクシーもない辺りな場所だったので 30 分近く歩いて、やっとバス停を見つけた。

やがて来たバスの運転手は、信じられないことにサンタの帽子をかぶり、車内に大音響でクリスマスキャロルを流していた。



(陽気な運転手)

運転しながら乗客と雑談に興じ、よほど機嫌が良かったのか、ポケットからキャンディを出し皆に配っていた。公共バスをマイカーのように乗りこなす？運転手は初めてで、記念館を出る時の暗鬱な気分は吹っ飛んでしまった。

天安市街に戻ったのは午後 1 時を過ぎていた。そのまま、高速バスに乗っても良かったが、乗らずに時間をつぶしたのには訳があった。15 日は午後 2 時から、全土で大規模な防空訓練が行なわれると前もって聞いていたからである。



(全土一斉の防空訓練)

2時ジャスト、昔映画で見たことがある腹に響くサイレンが、市街を圧した。これを待っていたように、パトカーが交通を遮断し、公安と思しき腕章をつけた人が道路に割って入った。

一般の小型車両は進路の右片に、大型車両は道路の中央に完全停止させ、通行人は建物や地下に避難を命じていた。

得がたい経験なので建物の影に入りそっと見ていると、今まで車と人で溢れていた街は、5分後はゴーストタウンと化した。

不気味な防空警報と軍用車両のサイレンが交叉し、時々頭上を戦闘機の爆音が過ぎる。延坪島への砲撃直後だけに緊迫感が漂っていた。午後2時20分、それまで仮死を装っていたアルマジロが、突然、動きだしたように街は再び喧騒を取り戻した。

不気味なサイレンは、日本での安逸な日々をむさぼる私にとって、気持ちの引締めと、幸せを実感するのに充分であった。

## V. 不安定な平和

ソウルを中心を流れる漢江の北側、国防部の前に「戦争記念館」がある。正面の入口には、優に 20mはある青銅の矛（ほこ）と、これを取り囲むように兵士に続く群集の像、実話として南北に別れた兄弟が、戦場で会い駆け寄って抱き合う像が目を引く。



（兵士に続く民衆の像）

公園風に整備された庭には、朝鮮戦争で使用された軍用車両や曲射砲が整然と並んでいる。左奥には、その昔、教科書に載っていた広開土王の石碑や、その後方には、膨大な数の戦車や戦闘機、ベトナム戦争で知られたB52 大型爆撃機が翼を横たえていた。

海を模した池は凍結していたが、北朝鮮軍との交戦で無数の銃弾跡も生々しい駆逐艦が公開されていた。



(銃撃で無数の弾痕が残る駆逐艦)

白亜の本館の階段を登ると、エントランスの中央に、昨年3月、哨戒艦「天安」の撃沈で戦死した64名の遺影と、回収された「魚雷」の残骸が展示されていた。

1階から3階まですべて戦争にまつわるものである。2階は朝鮮戦争、3階は戦場体験、非常準備体験や海外派兵（PKO）の重要性を示し、一般人に混じって兵士の姿もあった。

3年1ヶ月に及ぶ朝鮮戦争は、1953年（昭和28年）に休戦したが、60年近く経つ現在も、最終的な終結に至っていない。

この戦争の犠牲者は、民間人を合わせると300万人以上という。

挑発と牽制を外交カードにする北朝鮮を見るにつけ、ガラス細工のように危うく不安定な朝鮮半島の平和を思った。

## VI. 血と銭は同じか

戦争記念館の本館前をコの字型に結ぶ回廊は、無数の大理石の柱によって支えられていた。柱と柱の間の銅版には、アルファベットで、おびたしい人の名前が刻んである。



(沈黙の回廊)

1945年(昭和20年)、日本の敗戦から今日まで国防に殉じた人々である。朝鮮戦争で戦死した韓国の将兵は、約22万6000人だという。回廊には韓国の将兵のみならず、参戦した連合軍21各国の戦死者に敬意を表し、国旗を真上に配し国別に名前が刻まれている。殊に、アメリカは約3万3000人を超す将兵を失い、出身の州毎に名前が記されていた。

韓国もその後、アメリカとの同盟により1965年(昭和40年)以降、ベトナム戦争に延べ30万人を派兵し、5000

人近くが戦死している。第二次世界大戦が終わってからも、ほぼ 10 年毎に世界各地で紛争が起きている。

中でも朝鮮戦争とベトナム戦争は、他に類を見ない規模だった。

この身近な戦争でも、日本は平和憲法に護られ、基地や物資の提供、金銭の拠出で血は流さず、その方式で今日に至っている。

血を流すどころか朝鮮戦争の特需は、敗戦からの復興を早めたとして、未だ韓国や北朝鮮の怨嗟の対象となっていると聞く。

本来、同盟の「盟」の字は、互いの血をすすりあって固く誓うことで、その意味なら、造りの下は「皿」より「血」のほうが適切かもしれない。

アメリカは朝鮮半島で多くの血を流し、韓国もベトナムやアジアの中で血を流し、必死に盟約を守ってきた。

アメリカに対して思うことは、同盟国の響きは良く頼もしいが、一朝有事に際し、果たして「血」と「銭」の重さは、同じと考えてよいのだろうか。

中国やロシアに対し、ほぼ同じ考えの日本と韓国でありながら、双方の溝は相当深い。戦争記念館の正面に各国の国旗が掲げられている。しかし、いくら探しても、そこに日の丸が無い現実が、それを物語っているのではないだろうか。

## 編集後記

内閣府は毎年 10 月に外交に関する世論調査を行ない、この中に、日本人が親近感を抱く国の問がある。

韓国は、1980 年代 34.5% だったが「韓流ブーム」もあって、昨年は 63.1% まで上がったが、アメリカの 79% には及ばない。

規模は違うが 2010 年 8 月、朝鮮日報が韓国の成人 1043 人を対象に、同様の調査を行なった。これによると、アメリカは 71.6%、日本は 6.2% と中国 6.4% より低く、ロシアは 2.75% であった。

先日のアジアカップで、韓国選手の日本への侮蔑行為は記憶に新しいところである。「加害者は忘れ、被害者は忘れない」と言うが、一衣帯水の両国にとって、わだかまりが消えるのは、いつの日だろう。



撮影：平成 22 年 12 月 13～16 日  
文と写真 小池和栄